

空き家資料の保全活動の実施

— 2021年度の宮崎歴史資料ネットワークの活動 —

全国で増加している空き家の中には、歴史文化に関わる資料が遺されつつも放置状態のまま処分されてしまう事例が多くある。そうした「空き家資料」について、今年度は2件の資料保全活動を実施した。昨年度にひきつづきコロナ禍における難しさもあり、十分な配慮の上での作業が求められる事となった。

宮崎歴史資料ネットワーク

山内 利秋



W家建物。昭和初期に建設された住宅で、資料保全後に解体された。〈開発に伴う緊急調査〉の考え方で行ったレスキュー活動。



甲冑の梱包。同家は長期間空き家になっており、盗難被害にもあっている。兜はその際に失われてしまった可能性がある。



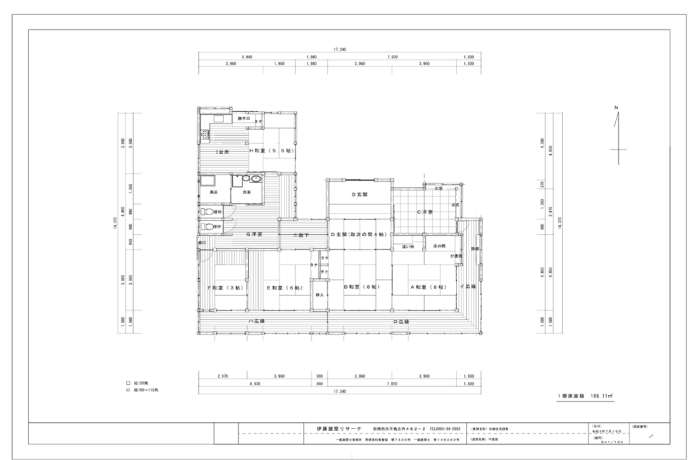
美術品の確認調査。限られた時間で選別を行わないといけない事から美術系の学芸職員に確認を依頼した。油彩画・書画が多かった。



襖の梱包作業は鹿児島資料ネットが実施。住宅を建てた人物は大正期に台湾総督府に赴任し、関連の文書資料が多く確認されている。襖下張りにもこうした資料の存在が予想される。



ひなたヘリテージ機構が実施した建物の記録化。木造の在来工法の建築の場合は寸法がわかりやすいので、専門家であれば限られた時間でも記録化は意外と早く進む。



記録化された建物の平面図。この図面に権利者の記憶をもとに、以前あった部屋等を復元した。



活動の参加者。極めて限られた時間で効率的に作業をすすめる必要があった。作業分担を明確にして合理化をはかった。

2021年7月に実施した、宮崎市W家での資料保全活動。旧鉄肥藩に属す家。権利者は近くに住んでいるものの20年以上空き家となっていた。近隣の学校法人が施設拡張のため土地を買収、取り壊しとなる事から宮崎資料ネットに相談があり、資料保全が行われた。レスキューには鹿児島歴史資料防災ネットワーク、ひなたヘリテージ機構の他、宮崎県総合博物館・都市立美術館からも支援があった。

調査では文書資料・美術品が確認された他、昭和初期に建設された建物の記録保存も実施した。現在の所、資料の整理作業は行っていない。



母屋と納屋をつなぐ建物天井が破損し、資料が地面に散乱している状態。大まかな分布図を作製してから回収した。



権利者があらかじめ回収していた資料。近代の刊本が多かったが、一部近世史料も含まれていた。



回収した資料。地面に散乱していた事からやや水分を含み、土埃によって汚損していたものが多い。これ以外にも、室内にあった記録資料や民具(祭具)も存在する。



脱水措置及びドライクリーニング。水害などによる水損資料レベルまで濡れている訳ではないが、措置は基本的に同じ。



一定のクリーニングを行った資料。近世のみならず、中世のものと考えられる史料が含まれている様子。



虫損による痛みが激しい史料も多い事を把握。これらの措置は今後検討していかなければならない。



無酸素パック「モルデナイベ」による脱酸素処理を実施した。地元高校生によるボランティア活動として実施。



固着した史料を剥離していく作業。作業に参加する事で和紙の風合いや「墨で書かれた古い文字」、現在とは違うデザインに興味関心を示すようになった高校生がいた。




整理されつつある資料を確認する権利者。自身のルーツに触れる。この後資料は自治体に寄贈された。

2021年6月に、県内北部の門川町において資料保全活動を実施した。宮司が死去し、長く空き家となっていた同町内の神社事務所(兼住宅)において、建物の老朽化によって腐食・崩落した天井から保管されていた自社に関わる資料が落下している状況を親族が確認し、門川町教育委員会に相談、さらにそこから宮崎資料ネットに対して支援要請があった。

資料保全を実施し、同町教育委員会においてクリーニングを実施したが、この際、地元高校に対してボランティア支援を要請した。福祉科など就職志向の強い高校では、就職活動においてボランティア経験が問われる。コロナ禍においてそうした活動が難しくなった状況では、資料整理のような身体接触を伴わない活動は感染リスクが低い事から、多数の人員の参加があった。将来地元で活躍する彼等彼女等にとって「資料をまもる」という意識形成にも期待できると考えている。現在、資料整理作業を実施中。

日向灘地震における対応



2022年1月22日午前1時8分頃、日向灘を震源とする地震が発生した。宮崎県北部では最大震度5強を記録した事から文化財に対する被害が懸念された。日向灘地震は海溝型地震であるものの、震源地が宮崎県北部周辺の場合は山間部で落石等の被害が発生する傾向がある様子で、昭和43年の同地震では死者も出ている。

今回の地震でも山間部で落石が発生し、名勝・天然記念物である高千穂峡において部分的な崩落が発生している。以下は1/29までに周辺自治体において確認した被害状況である(指定文化財については自治体からの情報)。

延岡市：指定文化財については被害なし。中心市街地の青山眼科病院建物(昭和初期、未指定)や格みレンガ蔵(大正～昭和初期、未指定)について被害なし。妙見町の三松緑地公園内の日高亀市像(戦時供出後のコンクリート像)が今回の地震で破損した可能性。北川町西郷隆盛宿陣跡資料館では被害なし。北川町内からは被害情報なし。

門川町：指定文化財については被害なし。西門川地区内の神社(未指定)において石製の手水鉢が破く。

日向市：指定文化財については被害なし。美々津重要伝統的建造物群の特定建造物の白壁がわずかに崩落。細島地区の歴史的建造物群(未指定)に被害は認められず。

日之影町：指定文化財の状況不明。延岡市との境にある鶴の瀬橋梁については被害がなかったと考えられる。戸川地区(未指定)では被害確認未定。

高千穂町：国名勝・天然記念物である高千穂峡で部分的な崩落。梅本長福寺の仏像が転倒し一部破損・同寺石塔群が崩壊(いずれも町指定文化財)。文化財建造物には被害なし。

五ヶ瀬町：楽天堂医院(大正～昭和初期建築、未指定)に被害なし。

※確認には、宮崎資料ネットによる現地調査の他、各自治体文化財担当・文化財保護審議会委員・ひむかヘリテージ機構からの情報提供があった。高千穂町以外の被害は軽微なものに留まっていると考えられる。ただし、半年等の期間が経過してから状況がわかる場合もあるので、引き続き確認調査を進めている。